




# 傲 慢 電 子 抱 き 枕

成人  
R18  
指定  
表現  
獵奇  
R18G  
同性愛  
男性

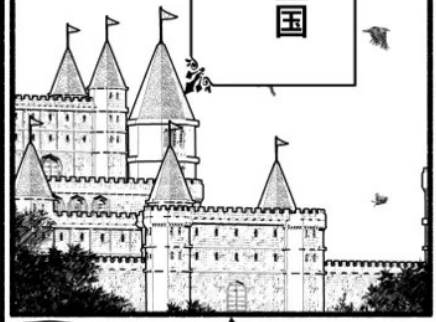
# 傲 穢 惡 子 物 き 執

※本書には猟奇表現、暴力表現が含まれます。  
※本書の内容は全てフィクションであり実在の人物や団体とは一切関係ありません。  
※本書の18歳未満の方の閲覧、購入、所持は固く禁じます。

A decorative border in white on a black background. It features intricate floral and wing-like motifs at the corners and along the sides, with small diamond-shaped elements interspersed. The design is symmetrical and elegant.

とある時代のとある場所  
悲鳴の絶えない国があった

クローナ王国  
王城



私の命は…構いません  
ですから民を…

これ以上虐げるのは  
どうかお止めください…

ルシエ様!!

……  
つまらない

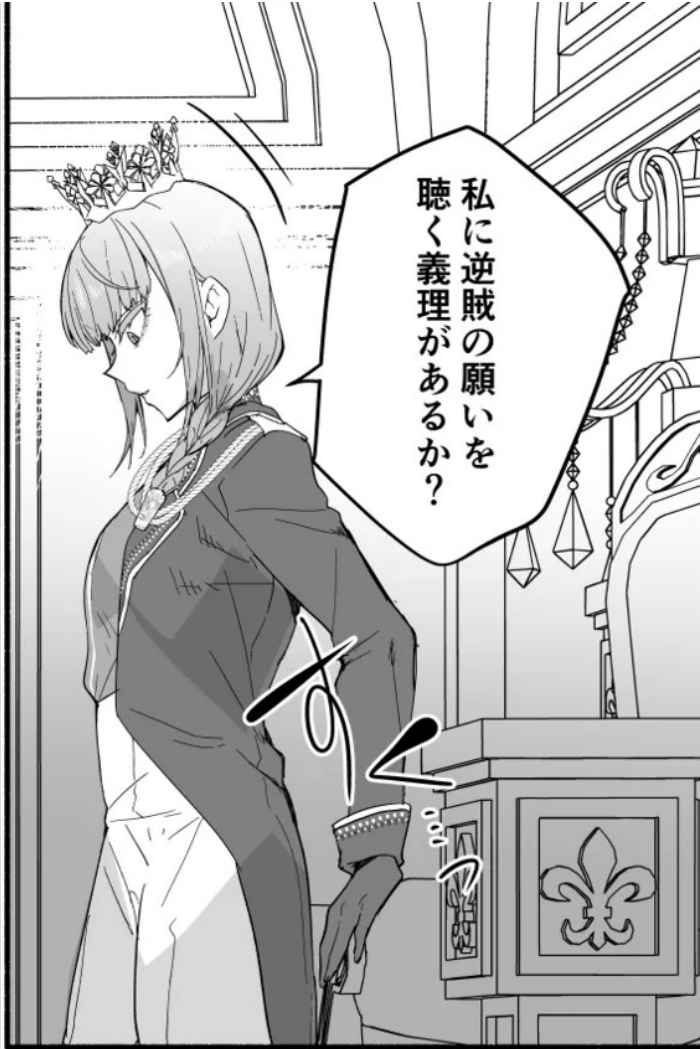
我が城まで乗り込んで  
何を言い出すかと思えば

英雄気取りの  
くだらぬ口上…



お前には  
私に利益を  
もたらし  
償ってもらおう

わ、私にはルシエ様にお与えできるものなどは…この命しかございません…っ



私に逆賊の願いを  
聴く義理があるか？



お前に会いたがって  
いたようだったからな  
嬉しいだろう？

マルク…!!



父さん…!!

お前の血肉を  
分けた

我が国の  
大切な財産だ

ふいっ…



何を言う  
お前にはまだ立派な  
資産があるではないか

ハッ…

なぜ逃げなかった  
マルク…!!

父さんを置いて  
逃げたりするもんか!

ルシエ様!!  
どうか父さんをお助け下さい!!  
僕にできることは  
なんだってやります!

よせマルク!  
ルシエ様!!  
息子はまだ子どもです  
どうかお慈悲を…!!

僕が父さんの分まで働きます!  
二度とルシエ様に逆らいません!  
僕は必ず国の為に尽くします!!

ふむ…

僕、頑張ります!!  
きっと役に立ちますから!!

あ…ダメだ…!!  
よせマルク!!  
逃げるんだ!!

良い心がけだ  
私は臣民に慈悲深いぞ  
安心するが良い  
お前が本当に愛国の民であれば  
特別にあの逆賊を救ってやろう…

ほ、本当ですか!!  
ありがとうございます!!

お前の息子はよく  
働く良い臣民だった

あ…あ…

芸人の仕事をやった  
自分の手足を喰う人間は  
客人にも評判でな  
随分チップを集めていたぞ

マルク…  
あ… そんな…

髪も随分  
抜けたな  
涙ぐましい  
献身だ

あまりに必至だから  
私も情が沸いてしまった  
「殺してくれ」「父の元に返してくれ」と  
乞うので特別に願いを聞いてやった

ひ…ひひ…

安心するがいい  
私は民との約束を果たす  
マルク少年の愛国心に  
お前の命を救ってやろう

おい、この男は  
命以外の全てを奪って  
「犬小屋」だ

手足も  
息子の首から下と  
同じ肉屋に卸してやれ



…め

悪魔め

お前には  
畜生に相應しい  
末路が待ってるぞ

…うるさい犬だな…  
まずは喉を焼き潰せ

とある時代の  
とある場所  
悲鳴の絶えぬ  
国があった

始まりは王妃の死であった  
王妃の命と引き換えに王子は生まれ  
かつて名君と言われた王は  
心を失い腑抜けた

少年は王子として  
国を導く立場に  
駆り立てられ

<sup>王子</sup>彼の周りの大人たちは  
皆、媚びへつらい  
すり寄った

王子は父の愛も  
母のぬくもりも知らず  
醜い欲望だけに囲まれて育った



孤独な少年は、  
雪の精のように美しく育ったが  
その身に流れるのは  
恐ろしく冷たい血液であった。

その心を慰めるのは  
弱者の嗚咽と悲鳴。  
「氷の天使」と謳われた  
彼の城では  
毎夜血肉で宴が開かれた

重税に憤る国民  
王子を諫める聡い臣下  
目障りに感じれば誰でも  
国一番大きな広場で  
見せびらかすように処刑し

気まぐれに生かした罪人も  
四肢と眼球を除き、喉を焼き、  
見せしめとして  
城下で人犬として飼った

心を失った美しい少年の王が  
頂点で民を踏みつぶす  
飢え細り減びゆく  
醜い国がそこにあった――



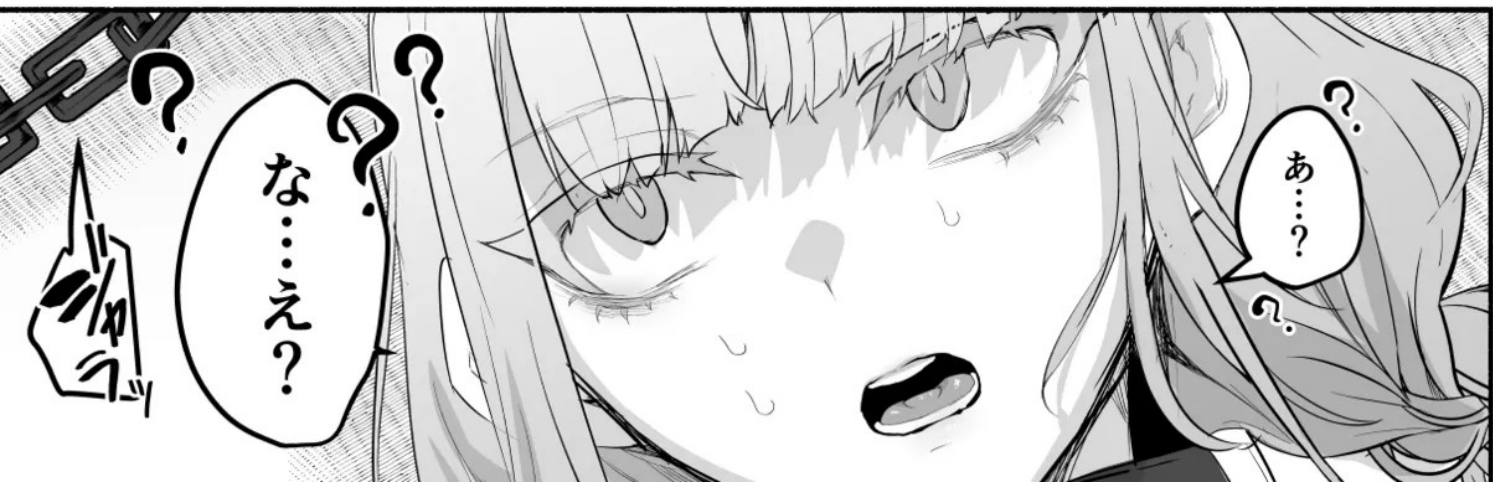


この瞬間  
までは

へっ？

おお  
ようやく起きたか

寝汚い王子だぜ



な...え？

あ...？



な…何の真似だ…  
貴様ら

首…  
繋がれている…?

首だけじゃない…  
手も…足も…



どこかで見た顔…  
人数は2人か

薄汚い壁…血の匂い…  
おそろく王城の医務室…  
謀反など長くは持たないはず

わざわざ生かして  
捕らえたということは  
目的は人質か…?

たいそれたことを…  
下民の命では  
釣り合わん愚挙だ

私に臭い罪人の  
息を吸わせたこと  
万死に値する…ッ  
楽には殺さんぞ…

おっかねえなあ  
さすが王子様  
誇り高いねえ



おおなんちゅう馨しい…  
男とは思えん  
これなら問題ねえな

どういうつもりだ  
貴様ら…!!  
今すぐやめろ!!  
この…っ!!



命を握ってる相手に  
下手な口をきけば

なっ!?



それにこの白蠟みたいな肌…  
指に吸いつくみてえだ  
痩せこけた売女とはちげえ

さ、触るな  
おぞましいっ

人でなしのくせに  
見た目だけは間違いなく  
国の宝だぜ



下の毛もツルツルたあ  
王子つつてもガキだねえ

女の子みたいなの  
女々しいチンポ  
してやがる

下劣な…っ

相手を怒らせるとか  
思わんですか?

貴様ら  
この私に無礼な口を…ッ

あーもう  
黙らせちまえ

貴重なケシ汁を  
たっぷり吸わせてある  
ありがたく味わえよ

ケシ…?  
何のつもりで…?

くそ…  
意識が…

どうやらしばらくは  
私を殺さない心づもり  
好都合だ…

枷はゆるんでないな  
服もあげたまま留めろ

犬以下の汚物共…  
殺す…殺してやる…

この私に反するなど…  
絶対に許さない…

生きてさえいれぬ  
必ずコイツ等を  
犬に食わせて  
処刑台に送って…





よし  
こっからは  
時間勝負だ  
ちんたらしてると  
死んじゃう



きれいに  
縫ってくれよ

ああ：  
しかしこの肌  
もったいねえな



よしよし  
もう終わりだからな



酒たのむ

ったく  
高いのによ  
飲んじまいたいぜ

おいおい白目むいてんぞ  
舌噛んでんじや  
ないだろうな

泡噴いてる  
だけだ

ショック死しねえよう  
良い薬使ってやったのに  
情けねえな

国民の手足をゴミみてえに  
ちよん切ってきたたのに  
自分は四本ぼっちで  
気絶しやがって

精子と小便垂れ流して  
大した天使だぜ

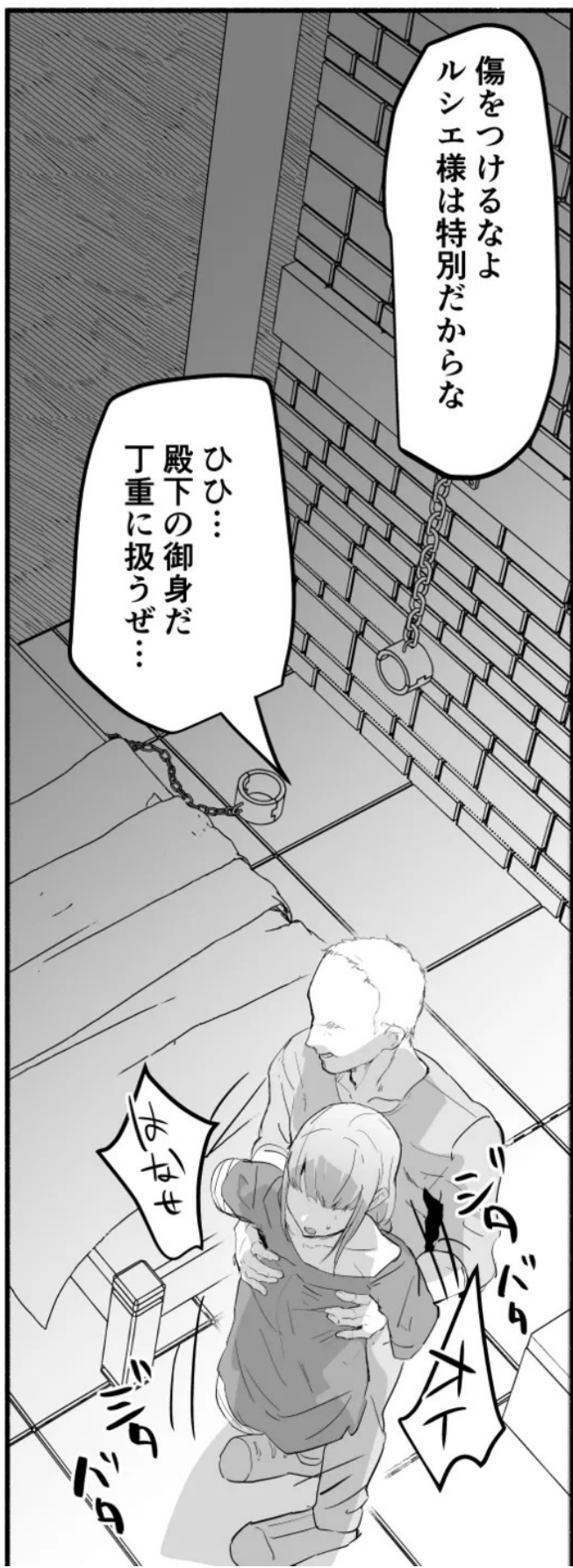
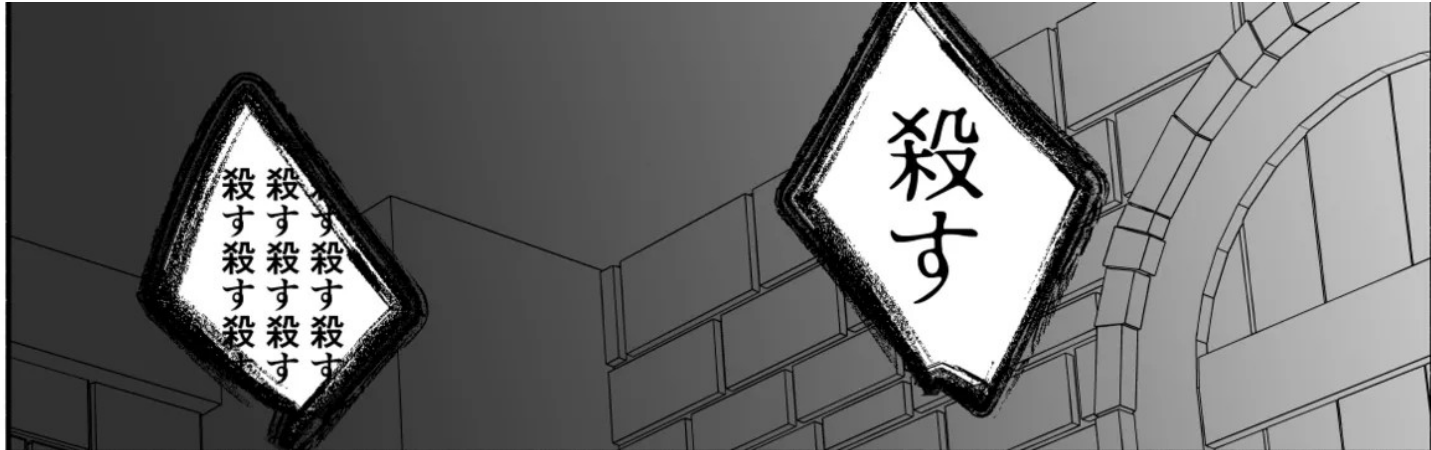
トロロ

トロロ

しかしいい出来だ：  
今までで一番かもな

ああ  
はじめて殿下に  
施しを受けた  
気分だぜ





傷をつけるなよ  
ルシエ様は特別だからな

ひひ…  
殿下の御身だ  
丁重に扱うぜ…

すなせ

シビタ  
オト



殺してやる…  
離せ!!  
触るなよ!!  
お前らみんな  
殺してやる!!

じたばた  
じたばた

馬鹿か?  
離れたら痛いぞ  
お前

こんだけ元気なら  
大丈夫だな  
頼んだぞ  
良くしてやってくれ

へへ…  
確かにルシエ王子だ  
信じられねえ  
役得だねえ



本当に元気ですねえ  
手足をちよん切られた  
とは思えねえ

き...  
気色悪いっ...!



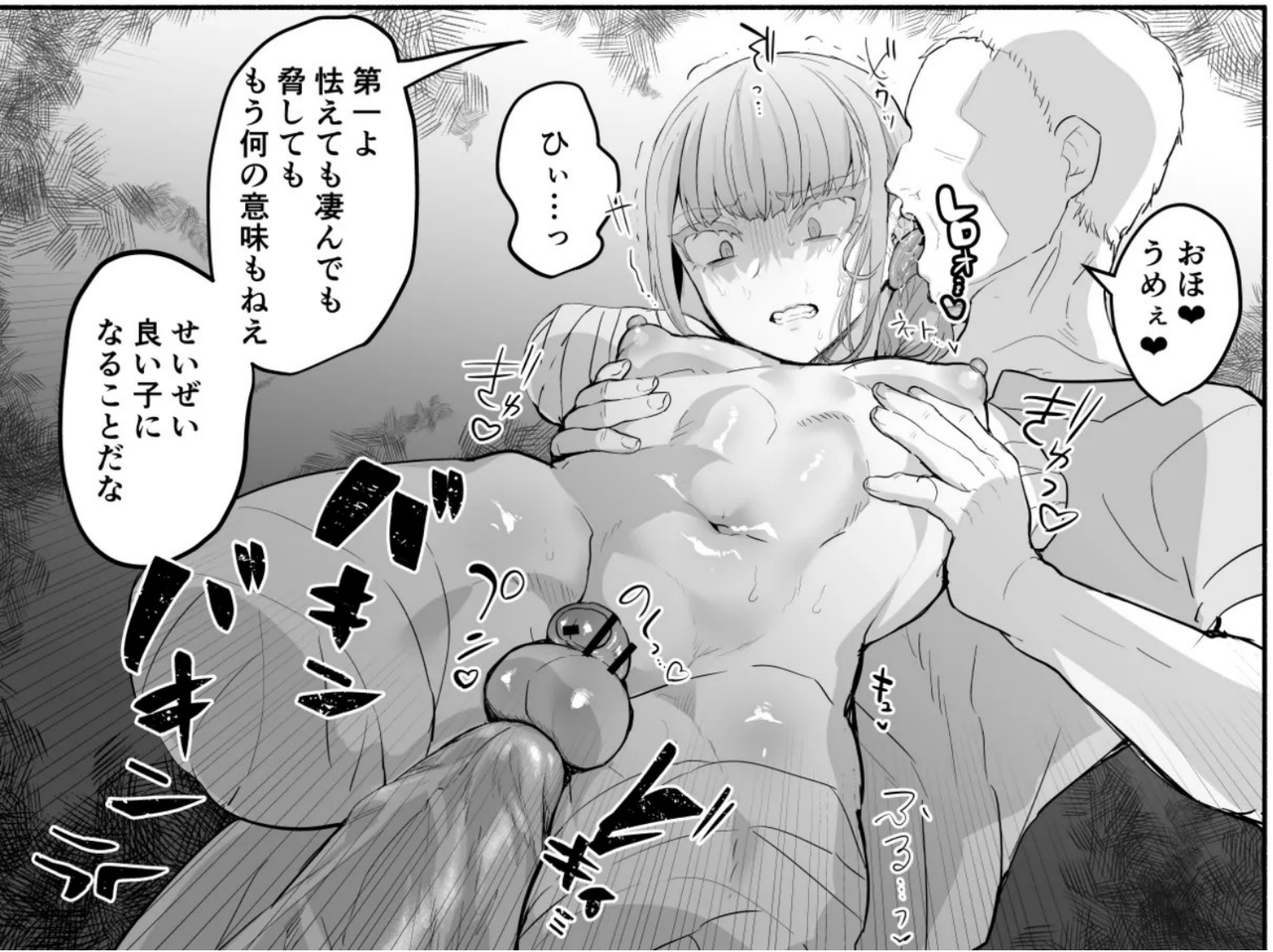
じゃ早速...  
おお...すげえ  
王族は肌ツヤが違えな  
いつまでも触ってられるぜ

触るな俗物が!  
なんなのだ!!  
貴様ら全員殺してやる!!



そんなに怯えなくても  
もうどこも切らねえよ  
多分な

痛っ



おほ  
うめえ

ひい...っ

第一よ  
怯えても凄んでも  
脅しても  
もう何の意味もねえ

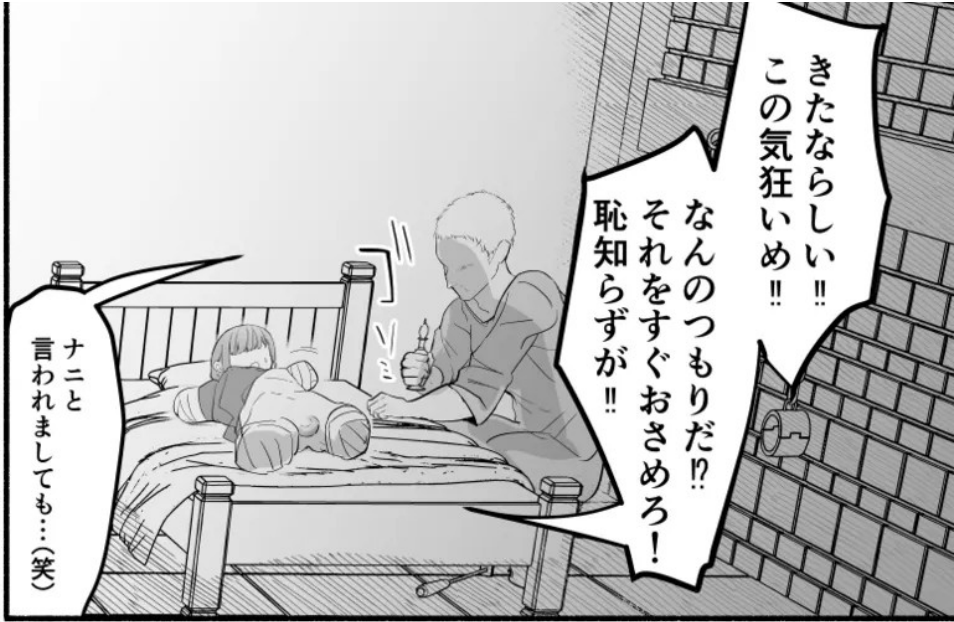
せいぜい  
良い子に  
なることだな

バキ  
バキ  
バキ



おさめたいのは  
やまやまですがねえ

王子で



ナニと  
言われましても…(笑)

きたならしい!!  
この気狂いめ!!  
なんのつもりだ!?!  
それをすぐおさめろ!  
恥知らずが!!



いきなりブチこんだら  
大目玉喰らっちゃまう



すげえ喰い付きだ  
いい穴だなこりゃ



冷たっ  
な…何を…っ  
アッ

どどこを  
触っている!

生白いケツ♥  
スベスベで  
手に吸い付く  
ようだぜ

アッ





ほれ  
まだ気持ちいいの  
くるぞ〜

とっとな  
受け入れちまえ



おいおい  
指一本触れてない  
メスチンポから  
透明なのが糸引いて  
腹についてますよ

気に入ったようで  
何よりですねえ



おおすげえ  
全身で腰振ってら

氷の天使とうたわれた  
ルシエ王子もこうなりや  
ただのいじきたないメス豚だな

手足だけじゃなく  
男とも今日で  
お別れだ  
こっちも  
扱いてやる

ルシエ様といえど  
年頃のがきだ  
マスカキくらい  
したでしよう

そろそろ  
ケツマンコアクメ  
きますからねー

この感覚なしじゃ  
生きられなくなるまで  
脳ミソにしっかり  
刻み付けるからなア

それ以上は…♡♡♡

畜生に生まれ変わった  
記念の豚アクメ  
よ〜く味わえよ



お〜お〜  
愛おしそうに指抱きしめて  
イキやがって  
その気持ちをはんの少しでも  
国民に分けてやればなあ

その日からルシエには  
全身に牝化調教が施される

何時間も媚薬漬けにして  
育てた甲斐あって  
扱けるくらいビンビンに  
なりましたねえ

ちよっとした  
ガキのチンポくらい  
ありますよこの乳首

乳母や使用人の女と比べても  
見たことがないほど肥大化した  
恥知らずなメス豚の乳首でしょう

乳首快楽は浸み込ませただけ  
一回もイかせておりませんからね  
おつらいでしょう

王家の礼儀作法を持って  
いき乞いすれば  
ちゃんと乳首アクメさせて  
さしあげますよ

だ、誰がそのような  
貴様のような下賤で狂った  
ことを…っ

おやおや  
まともな社交儀礼も  
備わってないのかよ  
お家が知れるぜ

手のかかる  
ガキだ





な、何をっ  
何を塗った

何なのだっ



薄皮を搔きながら  
よおしくしみこませて  
やるからな



じゃあな  
お望み通り下賤な民は  
ルシエ様に指一本  
触れないからよ

な、何…?

おいっ  
どこに行くお前!!



媚薬と蛙の油を  
混ぜた搔痒剤だ  
高えんだぞ

あ…?  
は…?

これはキくぞく  
どんだけ強情な奴でも  
狂っちゃう





おいおい  
まだ一晩だぞ



へへっのたうちまわって  
虫見てえだな殿下よお



調教済みのマゾ乳首を  
薬漬けにして

じっくり何時間も  
空気に舐られると  
みんな狂っちゃう



殿下も男だ  
チンポの扱いは  
わかるな？

舌で隅々まで舐めまわして  
唇をすぼめて吸いつけよ  
チンポに媚びて感謝しながら  
しゃぶるんだ

こんな…汚らしいものを…  
口に含めと…？

上手に出来たららご褒美に  
破裂しそうな勃起乳首  
滅茶苦茶に虐めて  
イかせてやるよ



やらねえならいいぜ  
別の豚の調教に  
行くからよ



ちくしよう…っ  
もう頭が…  
頭がおかしくなる…っ



おほっ…  
ルシエ様の舌ペロ…  
なかなかお上手ですよ  
さすが王族

よおし  
良い子だ♡

気をつけろよ  
少しでも歯を立てやがったら  
全部の歯ア抜かなきゃならねえ

おお…そうだ…そこっ…  
もつと細かく丁寧に舐めませ…  
おほ…っ♡たまらん…♡

まともに動かせるのが  
もう首から上しかねえからか  
器用なモンだけ

よおーし  
そろそろ入れるぞ

ん…?  
ん…?  
ん…?

もつと喉奥開いて受け入れろ！  
抵抗するんじゃねえ！

おほっ♡  
氷の天使も  
ロマンコはアツ♡

苦しいなあ  
よしよし♡



ほくらゴシゴシ  
ご褒美ですよ♡  
乳首疼いて  
辛かったですね♡

苦痛と快楽  
セツトで覚えて  
窒息でいく豚になれ

乳首アクメ声の  
振動いいぞ♡

乳首締め上げると  
喉元も締まるっ

頭が…っ  
ビリビリするう…

オラ乳首両方扱いてやる  
イけ！イけ！



おお〜…♡  
射精る♡

全部飲めよ…♡  
そうそう…♡



窒息しながら  
乳首アクメで射精しやがって  
偉いぞオイ



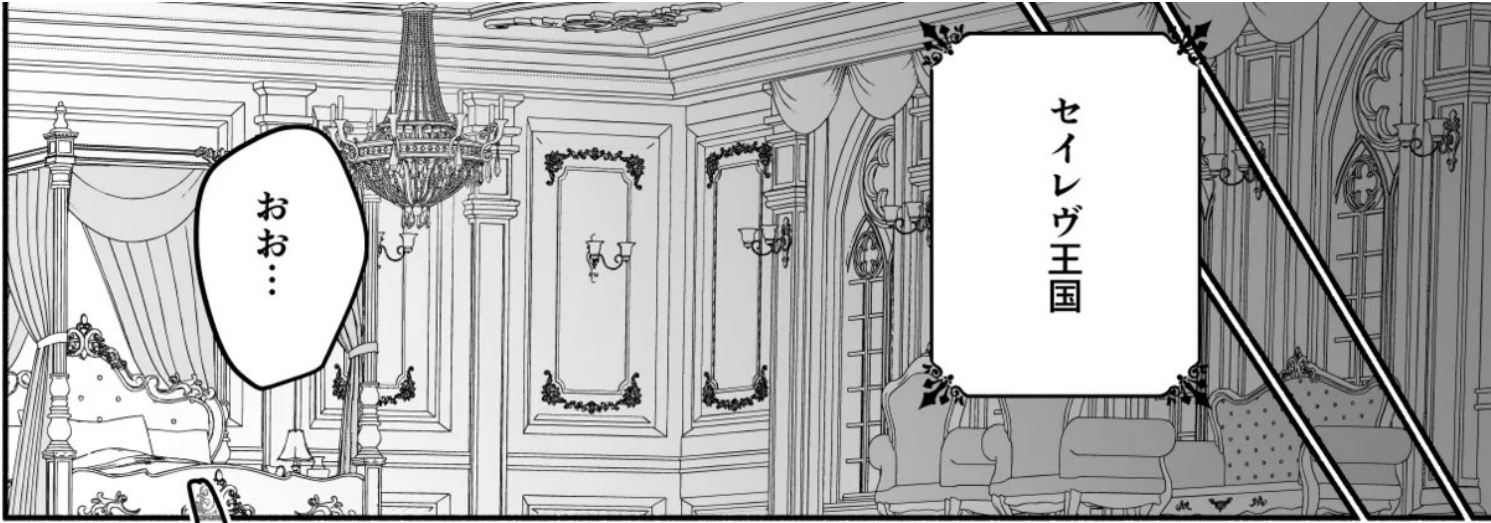


あなたはセイレヴ王国へ  
献上されるのです

この国と  
ともに

しっかり飾りましょう  
良い布を仕入れました

どうぞ  
お幸せに…



セイレヴ王国



これが氷の天使と  
謳われるルシエ王子…

透き通るような肌に  
宝石のような銀髪…



手足の状態も良いな…  
素晴らしい贈り物だ



聞きしに勝る  
美少年だが…

さあ  
封切りだ…

おほ♡

この目つき  
調教済とは思えん♡

たまには  
こういうのも  
悪くない

苦しいだろう  
今外して  
あげるからね

触るなッ  
狂人め!!

おお  
声もきれいだね

貴様ら全員皆殺しだ!!  
王家の人間が我が群を率いて  
お前たちを屠りに参るぞ!!

ははっ  
王家の人間か  
面白いことをいう

ちゅぽ

震えているじゃないか  
すぐに暖めてあげよう…

来るな!!  
来るなよおっ!!

潤滑油を注いで  
栓をしてあるとは  
準備が良い

卑猥な形だが黒ずんでいない…  
約束通りまだ使われてないな

ハハハ  
そんな身体で  
逃げようとする  
枕は初めてだ

初物の  
抱き枕は  
やはり  
最高だっ…

今使って  
あげるよ♡

いっ…!!

なんて馨しい香りだ…  
この世のものとは思えんっ

やめろ…っ  
やめて…  
もう嫌だ…

誰か…  
父上…っ  
父上?



要求したのはすばらしい枕だけだったのだが



……父上……?



これのことかい？

ふっふっ…

クローナの宰相殿によこされたんだよ



おど…

ふる

せえ…

ふる

んん

せん…

あつ あ…!!  
そんな…父上…  
たすけて  
たすけてっ

安心しなさい  
君は私の大切な抱き枕だ  
あんな風にはならないよ



まあ折角だ  
後で広場にでも  
飾っておこう

ひっ…



食いちぎるように締め付けてくるのに  
奥は舐めまわすように柔らかい肉が  
ちゅぱちゅぱと吸いついてくるッ

憎しみが恐怖が…  
男根で押し潰されていく…

父上の仇に性具のように  
扱われて…

私は…  
クローナ王国を  
統べる…っ

チンポを慰めるためだけの  
卑猥な身体してまだ王子のつもりか  
惨めでかわいい肉枕だ

それに  
キレイな顔して  
なんだこの乳首は!!

やめ…っ  
私は…あ

ち、ちがう…  
私はっ…

私は

私はっ

抱き枕  
なんだよ!!

国と共に  
民に売られ  
王は死んだ  
哀れな王子

私以外何もない  
捨てられたら  
ゴミになる家具



私には…何もない…？  
民も国も…父上も…  
もう…

私の側に  
いてくれるのは  
ご主人様だけ…



あ…  
いやだ…っ  
捨てないでっ  
一人はこわいっ

もちろん捨てないさ  
良い抱き枕を捨てる  
理由などないからねえ

おほ…  
なんという  
締め付け…



ルシエを  
ご主人様で  
いっぱいにして…

良い子だルシエっ  
もっと素直になれ



な、なる…なるから…っ  
ルシエは良い枕に  
なります…っ  
ご主人様…っ  
もっと唇を  
吸って下さいっ



ご主人様のチンポすごいっ  
そこっ♥ごりごりっつてえ♥  
気持ちいいっ♥

よしよし♥  
ここ好きか  
たくさん  
コスってやる♥



突くたびに嬉しそうに  
チンポ抱きしめて…  
こんなかわいい枕は  
初めてだよ♥



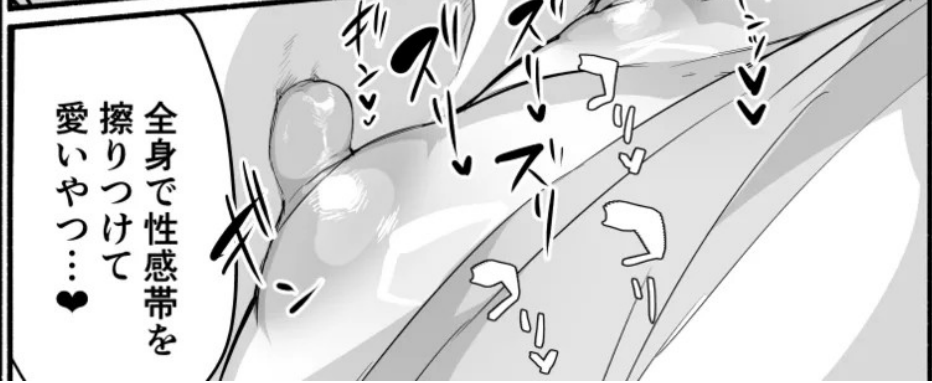
ご主人様…♥  
嬉しいっ♥



気持ちいい♥  
こわいっ♥  
ご主人様の腕…  
安心する♥

私を埋めるのは  
この快樂だけ…♥

もっと♥もっと突いて♥  
めちやくちやにしてっ♥  
完全に壊してっ♥



全身で性感帯を  
擦りつけて  
愛いやっ…♥

ずっと怖かった...

ドドドド

ドドドド

ドドドド

ドドドド

ドドドド

ドドドド

ドドドド

ドドドド

ドドドド

ドドドド

人に心を許すこと...  
甘えること...  
愛すること...  
愛されること...

キレイだ♡  
かわいいね♡  
大好きだよ♡

ああ...  
今確かに  
抱き合ってる...

身も心もゆだねて  
愛し合うこと...  
こんなに...

私だけは君を  
絶対に捨てない

手放したり  
しない

壊れるまで...  
いや...壊れても  
私の手元に置こう...

うれしいっ♡♡♡





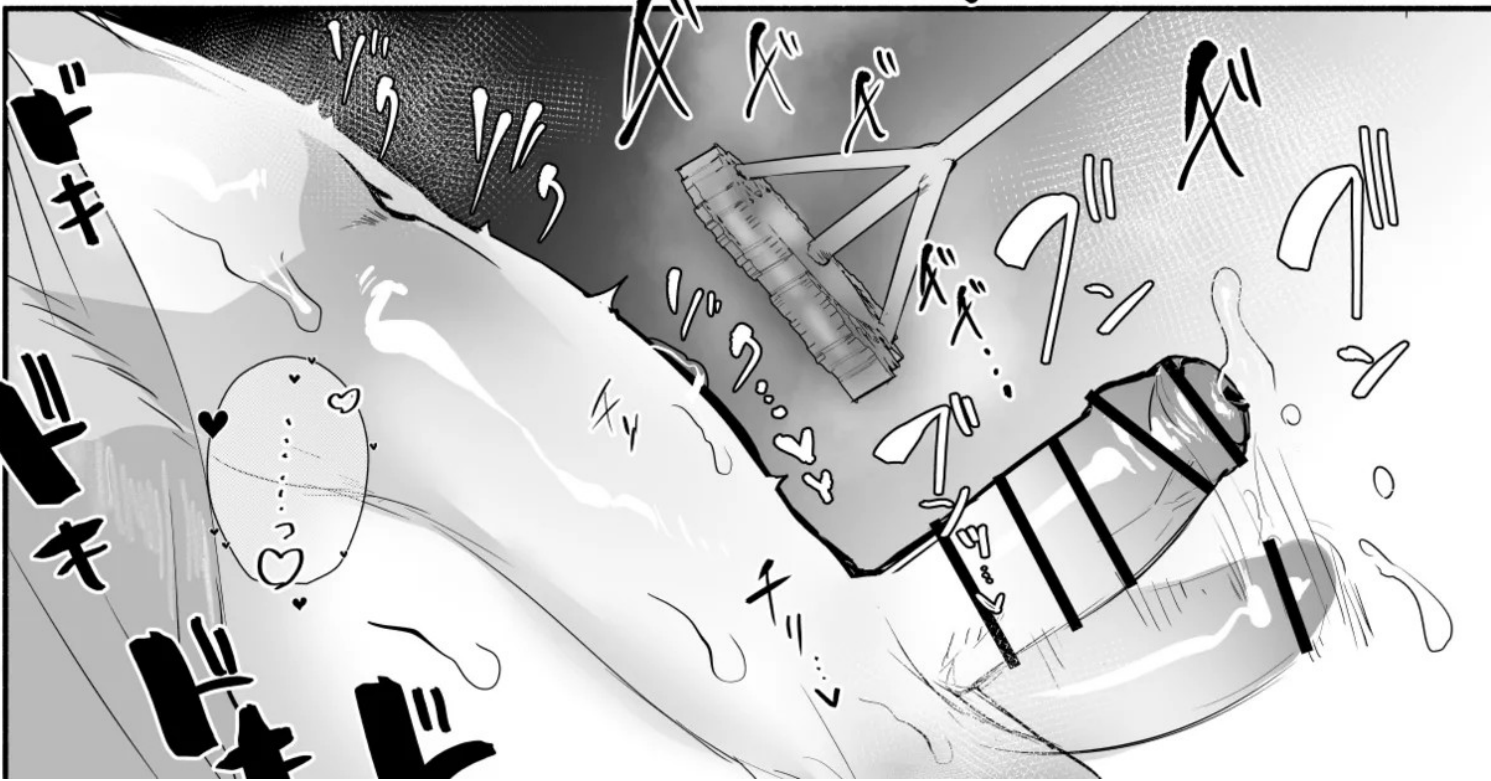
今から  
私の物として  
印をつけてあげるからね



かなり痛いと思うが  
がんばってくださいるか？

嬉しい…っ♡  
ご主人様♡  
ずっとルシエを  
使ってください…♡

なんて  
かわいいんだ…



キキ

キキ

キキ

キキ

キキ

キキ

キキ

キキ

キキ

キキ

キキ

キキ

キキ

キキ




ルシエ：君は  
すばらしい抱き枕だ  
きみを育んだ母国には  
感謝の念に堪えない！

よく  
がんばったね…♡

とある時代の  
とある場所

賢王が導き  
民が平穏に暮らす  
美しい国があった



名君、セイレヴ国王は  
クローナ王国を支配下に置いた後  
優れた内政の手腕で凍えた経済を立て直し  
多くの飢えた民にパンと水、仕事を与え  
自国の民と同じように扱った

暴君ルシエと彼の黻<sup>母</sup>つた国は歴史には残らない  
ひっそりと名君の傍ら、彼を慰める仕事にその生涯を費やし  
主の死とともに美しい愛玩家具は葬られたのであった

～終わり～

## ルシエ・ラ・クローナ

ルシエの母親はとても心優しく美しい女性で王にも国民にも愛されていました。身体が弱くルシエを出産と同時に亡くなり妻をととても愛していた王様は悲しみのあまり廃人ようになってしまったのです。

ルシエは父親に構ってもらおうとしていた時期もありましたがいつしか腑抜けた王を見下すような言動をとり自らが王のようにふるまうようになりました。しかし、内心ではずっと愛されたい気持ちを抱えていました。ルシエは誰も信頼できず、媚びへつらう大人たちに囲まれわがままで残酷で孤独な王子になってしまいました。

本来なら、両親の愛をいっぱいを受け、美しく聡明で優しい王子として、民から愛されたことでしょう。



瞳孔はちよつと縦長  
まつ毛が長い  
肌が白い  
青っぽい銀っぽい  
サラサラの髪  
身長158cm  
年齢16才

ルシエは罪人たち(気に触った国民)を気まぐれに拷問し死ぬまで劣悪な環境で飼い、時々見せしめに城下に連れ歩き国民を畏怖させ支配しようとしてきました。やがて、城に出入りしていた商人や闇医者が、その中から商品価値のある者を見繕い、体裁を整えて隣国に奴隷(家具)として売っていました。

その方が、罪人にとつても(ルシエに飼われるよりは)待遇も良く食料をほかの罪人に回したり、売上金でめちやくちやな経済をなんとか成り立たせていました。

今回ルシエが売り飛ばされたのは、彼に不満を持った民たちが増えすぎて団結した結果ルシエにへつらつた貴族達より力を持つてしまったからです。

# 傲慢王子の抱き枕

# あとがき

こんにちは、この本を手にとっていただき、本当にありがとうございます！

一度、好みの美少年の欠損ホモエロ同人を出してみたかったので  
何をしてもいい美少年を作りました

傲慢で性格が最悪で高貴で高慢な美少年が破滅して凌辱されて  
墮ちないように頑張ってるのが好きです

今回も墮ちないでほしい気持ちがあったのですが  
ハッピーエンドが良いかなと思って墮としました

かわいそうなルシエ君を見て心を痛めた方がいたらすみません  
最終的にルシエ君は幸せに暮らしました

(王様が年老いて、ルシエ君が青年になってもずっとかわいがりました)  
(王様が青年いけるなら、ルシエ君のお父さん雑に殺さずに  
親子丼すればよかった…とこれ書いててちょっと思いました)

改めて、この本を読んでいただきありがとうございました  
また読んでいただけるようにがんばります

## 傲慢王子抱き枕

発行日 2025/12/31  
発行者 油鍋式/puru  
lit. link <https://lit.link/puru0623>  
連絡先 aburanabeshiki@gmail.com  
印刷所 大陽出版(株)

※本書には猟奇表現、暴力表現が含まれます。  
※本書の内容は全てフィクションであり実在の人物や団体とは一切関係ありません。  
※本書の18歳未満の方の閲覧、購入、所持は固く禁じます。

**禁** 無断転載  
Do not repost to other sites.  
**禁** AI学習使用  
Do not AI Learning.



←  
何かあれば  
なんでも適当に  
送ってください



2  
0  
2  
5  
.  
1  
2  
.  
3  
1